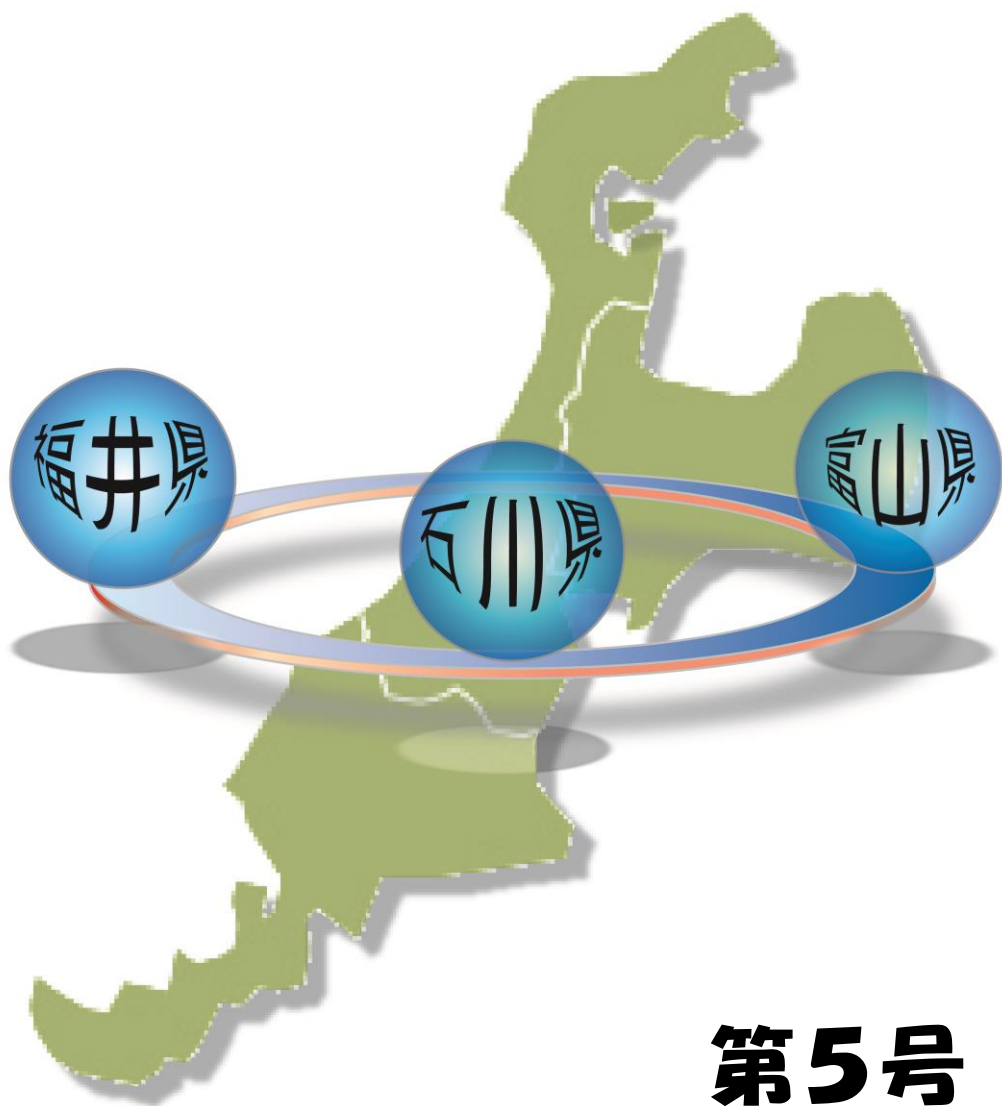


懇談会会報



北陸技術士懇談会

【事務局】	㈱日本海コンサルタント 内	〒921-8042	金沢市泉本町2丁目126番地	TEL 076-243-8390
【石川事務所】	㈱ホクコク地水 内	〒921-8021	金沢市御影町25-1番地	TEL 076-241-7158
【福井事務所】	丸一調査設計㈱ 内	〒910-0841	福井市開発町20-6番地	TEL 0776-52-8405
【富山事務所】	㈱アーキジオ 内	〒933-0824	高岡市西藤平蔵581番地	TEL 0766-63-8852

目 次

1. はじめに
2. 平成 29 年度総会・特別講演会報告
3. 平成 29 年度技術研修会報告
4. 平成 29 年度講演会報告
5. 平成 29 年度合格祝賀会報告
6. 平成 29 年度役員名簿
7. 平成 30 年度行事予定 (案)

1. はじめに

会員の皆様には、日頃より北陸技術士懇談会の活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。この懇談会は、富山、石川、福井の三県の技術士仲間が集う任意団体として、正会員が 600 名を超える組織に成長するとともに、毎年開催される技術士試験合格祝賀会にも 100 名を超える参加をいただくなど活発な活動を続けてきました。そして、来年は設立 50 周年という大きな節目を迎えます。これもひとえに講演会や技術研修会の開催、現場見学会の開催などを通して、技術の分野を超えて活動を続けてきた成果であると喜びに堪えません。

先日、事業委員の方から過去 20 年間の総会や技術研修会での講演テーマの一覧表が送られてきました。建設技術をはじめとして、自然環境に関すること、歴史や文化に関すること、宇宙や原子力に関することなどまさに広範囲に渡る内容でした。自分の得意とする分野を極めることは当然のことでしょうが、それ以外の分野の最新技術、研究を学ぶことは自分の得意分野での新たな発想を生むことにもつながり極めて有意義なことだと思います。この懇談会活動を通して、会員の皆様の技術交流の輪が広がっていくことを願っております。

さて今年 2 月、北陸地方は近年にない大雪に見舞われ、特に福井県内では鉄道や道路交通が大混乱を招き、社会経済活動に多大な影響を及ぼし、その状況は全国ニュースで連日報道されました。冬の北陸地方の課題、マイナスイメージが露呈した感じがしますが、社会情勢の変化に伴い、住民はより高度な交通環境を求めており、混乱が終息するまで厳しい報道が続きました。

この事態が起こる直前、福井で小松製作所の野路会長の講演を聞く機会があり、世界で活躍するコマツの建設機械の高度な技術開発レベルに感動しました。自動運転の乗用車が出現し、土木の現場でも無人機械が地盤を均し、土砂を運搬していく光景があちこちで見られるようになりました。その時、無人の除雪機械が開発できないかという発想が閃きました。建設離れや除雪機械のオペレーターの高齢化が進む中、無人の除雪機械の登場は近い将来現実のものになってほしいと期待しています。皆様も、ぜひこの懇談会活動に参加してこんな楽しい発想を膨らませていきましょう。

北陸技術士懇談会 副会長 橋本 栄治

2. 平成 29 年度総会・特別講演会報告

平成 29 年度 北陸技術士懇談会の総会・特別講演会を平成 29 年 6 月 3 日 (土)、金沢勤労者プラザ 3 F 研修室で行いました。

■総会

総会議事では①平成 28 年度決算、②平成 29 年度予算、③平成 29 年度年間スケジュール、④役員改選、⑤その他報告と進められ、いずれも原案通り可決されました。また、役員改選で東川敏氏(石川)が新理事に、大石守仁氏(富山)が新監事に選任されました。

講演に先立ち有澤会長から特別講演は幅広い各種分野の講師に依頼し、異業種間の交流にも努めており技術士皆さんの知識向上に役立って欲しい旨の挨拶がありました。

なお、総会出席者は 49 名、特別講演出席者は 71 名でした。

【定例総会・特別講演の状況】



■総会特別講演会

演題 1 : 「福井県の恐竜化石発掘と研究」

福井県立大学恐竜学研究所講師

福井県立恐竜博物館主任研究員 柴田 正輝氏

1) 恐竜とは

「恐竜」とは“後脚が体の真下に伸びる(直立できる)爬虫類”であり、四足歩行する首長竜や翼竜等は恐竜ではないこと(イラストや映画によくでてくる「偽恐竜」にだまされないように!!)、鳥とワニが恐竜に近い分類に属していることなどが紹介された。

2) 日本の恐竜、福井県の恐竜

日本の恐竜化石発見は、1978 年岩手県で発見され、現在 28 カ所となった。学名が付けられた日本の恐竜は 7 種であり、そのうち 5 種が福井県で発掘された恐竜である。1982 年に石川県白峰村で拾った石を持ち帰った女子中学生が、何かの拍子に石を落として割れた中に見つかったのが恐竜化石だったという物語がある。

3) 福井の恐竜研究

恐竜化石の研究も進んできて、組織学的手法を使い骨の断面から恐竜の年齢が分かるようになり、現在では数十年だと分かってきた。

また、CT を利用した研究では、空洞の大きさから脳の大きさや三半規管の形状も判明し、その形から

どんな音を聞いていたのか、どんな声を出していたかも推測できると考えている。

【柴田先生のご講演】



4) 恐竜生態

- ・巨大な体になったのはなぜ？――ほ乳類の成長はある程度で止まるが、爬虫類は死ぬまで成長が止まらないこと、卵を産んで成長が早いことなどの要因で大きくなった。
- ・体色はどう決めているのか？――羽毛を持つ恐竜は羽毛の化石から色が分かるが、羽毛を持たない恐竜の色は想像で決めている。
- ・恐竜が絶滅した理由は隕石か？――隕石が原因だが、その時代から生き残ったワニやカメ、鳥の仲間が現存し、生き残った理由は未だに不明である。

演題2：「これからの「知的デザイン都市」のあり方とその戦略」

富山大学大学院理工学研究部 教授

技術士（総監部門、建設部門）久保田 善明氏

富山大学に土木系の学部がないとのことから様々な検討を重ね、平成30年4月に新学部「都市デザイン学部」設置が認められる状況にある。

1) はじめに

都市と大学は“ユニバース”（一つの方向性を持った団体）として繋がりがあり、大学も地域との連携が重要で「知的デザイン都市」について考えたい。

富山大学では、全学部をつなぐパイプの役割を果たす9番目の学部「都市デザイン学部」を設置し、「材料デザイン工学科」「地球システム科学科」「都市・交通デザイン科」を置く予定で、平成30年度には開講できる。

【久保田先生のご講演】



2) 「知的デザイン都市」のあり方とその戦略

北陸圏における広域地方計画では、課題として①子育てと共働きできるライフスタイルの維持・向上 ②人口流出に歯止めをかける雇用の充実 ③厳しい自然環境でも安全・安心で快適な生活レベルの維持・向上 ④都市部と農村部の共生 ⑤北陸ブランド力を活かした産業・営農の強化 ⑥本社機能移転等への積極的な対応 ⑦優れた観光資源を活かした観光客誘致が挙げられ、対流促進型国土形成に取り組むことが重要だと考える。その際にデザイン（理想を具現化すること。プロセスとその成果）の手法で取り組むことが重要だと考える。

3) マネジメントとしての都市デザイン

都市デザインを考えるには、経営学的手法により、独自の持続的な強みを特定することが重要であり、都市における持続的強みには、自然・地理と歴史があり、戦略的な知的デザイン都市政策に繋げることである。その際にデザインをマネジメントすることの重要性を理解しておくことが必要で、「ちゃんとマネジメントをすればデザインのリターンは大きい」ことを認識することが重要である。

4) 都市の風土

都市にはそれぞれの「風土」があり、自然と人間と社会が絡み合って独自の風土を形成している。現代においては、現代的な風土を再構築し、長期的に湧き出る価値づくりが求められ、都市の風土性をつむぐためにも「デザイン」は不可欠である。

■交流会

総会及び特別講演会后、講師を囲んでの交流会を行いました。橋本副会長の挨拶・乾杯の後、懇談に移りました。講師には、多くの会員から質問攻勢があり、先生方は忙しく対応されていました。

【交流会風景 ～講師を囲んで～】



また、会員同士お互いの近況を語り合い、異業種交流にも花が咲きました。

和気あいあいのうちに時間が瞬く間に過ぎ終了の時間となり、今度副会長の中締めの後、散会となりました。

文責：福井 為沢 剛

3. 平成 29 年度技術研修会報告

第1回研修会が平成29年11月11日（土）、金沢勤労者プラザにて会員約60名の参加の下開催されました。講演に先立って、有澤会長からの挨拶では本年、正会員に配布した会員名簿の目的、平成31年には本会は50周年を迎えることになり、更なる発展と会員の協力を呼びかけるようお話がありました。

■技術研修会の内容

講演1：「クレーンメンテナンスの現状と課題」

東山 浩士氏：(株)北都鉄工搬送システム本部長

(1) クレーン技術の紹介について

クレーンの形式として「8割」を占める天井クレーンでは、鉄道車両やロケットの組立てに使用するなど、大規模な製作工程のなかで必要不可欠な役割を担っている。設置箇所の例として、福島第一原子力発電所内の共用プール内に設置されている。

(2) クレーンメンテナンスの現状と課題

クレーンのライフサイクルでは「製造・設置」→「点検」→「予防保全・事後保全」→「大規模改修・現代化改造」→「廃棄」の流れに準じて計画的かつ効率的な運用を行っている。「点検」においては、「定期自主検査」を実施すると同時に、2年間の更新時には、検査機関の性能検査を受け、クレーンの安全を確保する仕組みとなっている。

近年では ICT を活用した情報技術を活用し、点検情報の「共有」と「見える化」について積極的な取り組みが行われている。特に自社の「点検くん」というシステムでは、点検マンによって実施された点検結果をすぐにクラウドサーバーに登録する。そのデータを社内・顧客が共有し、管理することで、顧客に対して迅速かつ正確な情報提供を促すシステムが構築されている。

【東山講師のご講演】



(3) クレーンメンテナンスの今後の展開

- 稼働情報と点検情報を連携させ、部品寿命を予測、交換時期を知らせる。
- クレーンメンテナンスの保全計画を提案し、クレーン全体の寿命予測へつなげる。
- クレーンの更新時仕様提案(オーバースペックにならない、お客様の運用に必要な仕様を提案する)。また、「点検マン」のスキル(感・気づ)をデータベース化し、今後の点検手法を確立し、より効率的かつ公正に進行していくことが重要である。

講演2：「農業用水のパイプライン化とその効果について」 為沢 剛氏：九頭竜川下流域農業用水再編推進協議会 事務局長

(1) 農業用水とは

農業用水について、「かんがい」を目的とした水であると同時に「多面的機能」があり、生活、環境、防火、消雪、親水等、我々の生活において非常に身近で重要な機能を有している。

用水路の構造形式は大きく「開水路」及び「パイプライン」の2つに分類され、それぞれの特徴から長所・短所を挙げられ、現在のパイプライン化に対する効果を説明された。

(2) 農業用水のパイプライン化とその効果

- 水路の耐用期間を確保でき、転落事故やゴミ等の投入防止を図る。
- 水管理合理化により創出される用水を水質悪化、塩害、用水不足が発生している地域へ安定的な送水が可能となる。

【為沢講師のご講演】



(3) パイプラインの活用

以前の用水路(開水路)では、近年のゲリラ豪雨により用水路へ大量の雨水が流入し、水路から越水するなどの被害が増加していた。しかし、新たにパイプライン水路を建設することで既設開水路を排水専用水路として活用し、突発的な豪雨にも排水が対応できるものとなった。

近年の用水施設の活用として、「小水力発電」の導入についても積極的な取り組みが行われており、パイプラインの持つ潜在的エネルギー(圧力)の有効活用が各地で実施されている。

(4) 九頭竜川下流域の用水の歴史

九頭竜川下流域の用水の歴史は、遥か「6世紀初め」にまで遡り、「鳴鹿堰堤」については「日本で最古の歴史を持つ大規模用水路施設」と言われ、遥か昔から今日まで地域住民に良質な用水を提供し続けている。そのような良質な用水を現代の最新技術によりパイプライン化へと更新し、着実に次世代へ提供していくことが重要である。

講演3：「これまでの研究と今後やりたい研究

～BCP拠点構想～ 原 隆史氏：

富山大学大学院理工学研究部 教授

(1) 合理的な「設計手法と設計基準」

近年、道路・河川・その他のインフラ構造物に対

する設計手法は、「安全率（安全余裕）」に対する設計から「信頼性に基づいた設計」への移行が進んでいる。では、信頼性に基づいた設計とは？安全率の中身（どんな「ばらつき」や「不確実」）を考慮し、信頼性に基づいた安全性を実現する設計を行うことである。

(2) 合理的な「新工法と防災対策」の開発

対策工を検討する上で一般的に経済的（安価）な対策工法は不確実性が大きく、損傷確率が大きくなる場合が多い。

「リスク」＝「危険性」×「被害」

大切なのは「高価な対策」と「安価な対策」の使い分けであり、費用とリスクを考慮し、合理的な対策工法（最適設計）の使い分けが重要であると話された。

【原講師のご講演】



(3) 企業・工場のBCP拠点としての北陸（富山）の活性化構想

今後、太平洋沿岸の災害リスクの増大から、バックアップ機能としての北陸の重要性は増している。このなかで安全な富山（信頼性の向上が必要）を全面に押し出し、企業・工場のBCP拠点として活性化を推進し、富山県を拠点とする「物流の安全性」（確率論点安全性評価・拠点から高速道路までの到達確率）更にはその安全性の評価方法を全国へ発信し、ひいては北陸の活性化に繋げる。

■交流会

橋本副会長の音頭で乾杯の後、講師の皆さんを囲んで和やかな懇親に入った。

会員同士、お互いの近況を語り合い、和気藹々のうちに終了の時間となり、今度副会長の中締めで散会となった。

【交流会の乾杯】



文責：福井 山崎 裕生

4. 平成 29 年度講演会報告

北陸技術士懇談会の第2回講演会が、平成30年2月3日（土）、金沢勤労者プラザに会員73名（講師除く）の聴講の下に行われました。

講演に先立って有澤会長からは、「私が会長になって、5年間で過去最多の方がご参加頂き、喜ばしく思います。北陸技術士懇談会は、来年50周年を迎え、このように大変盛大な会になったことは皆様方のお陰だと大変感謝しております。」と挨拶されました。

■講演内容

講演1：「事故のない電気設備を追い求めて」

酒井 重嘉 氏（株関電工 技術開発本部 技術研究所長 技術士：電気電子部門 工学博士）

（株関電工へ入社後、現場施工管理業務、トラブル対応業務（事象解析・対策検討）に従事した。また、明治大学にて、「分散電源の電磁環境（雷・ノイズ）」に関する研究にて博士号を取得した。

(1) 電気設備の説明

電気設備の基本は、高圧電圧（6,600V等）から電柱で配電され、使用する際に低圧電圧に落とし、電気ケーブルを通して、会社や各家庭で電気機器が使用されている。これらは、十分なシステム設計・試験により安全性を確保しておく必要がある。

(2) 電気設備の事故について

トラブルの無い電気設備を追い求めるために、5つのサイクルで回しながら対応していくことが望ましい。1つ目は現場のヒアリング（系統図の整理）、2つ目は測定機器（オシロスコープ・テスター）を用いたデータ収集、3つ目は実験・シミュレーションによるトラブル再現による解析、4つ目は対策・効果検証し、5つ目にデータベース化による社内展開を図る。

【酒井先生のご講演】



(3) 雷による事故例について

電流が流れると熱が発生してしまう。雷の電流は、100kA～200kAと大きく、この電流が瞬間的に流れると、電気機器の故障や接地線を取り付けたビルのパラペットのコンクリートを壊すこともあり、大きな事故になる可能性もあるため、特に注意が必要である。

接地により大地と電気機器をつなげておくことが重要で、日本ではTT接地方式が主流である。

(4) トラブル調査手法について

設計・施工の人的ミス（ヒューマンエラー）をゼロにすることは難しく、今後高度技術者・技能者の高齢化・教育者不足により、一層トラブルが増えて来る可能性がある。したがって、事故を軽減するため、経験値のデータ化、AI解析、IT機器の活用、ロボット化、大学との連携により、事故のない電気設備を追い求めて行きたいと思う。

(5) さいごに

現在は、①月間300kmのランニング、②月間10個の調査事例の整理、③半年1本の査読論文を目標に、「己の限界に挑んでいる」。皆さんも老化防止のため、何らかの目標を持たれた方がよいと思う。

講演2：テクノロジーの導入による効率化とその効果
～AI・超高解像度カメラ・ドローン・スマホ・5G～

藤生 慎 氏（金沢大学 理工研究域
環境デザイン学系 助教）

(1) ドローンを活用した研究の取り組み

ドローンを使用したのは、2015年4月のネパールの地震被害状況を撮影したのが最初であった。その後、新型のファントム3（4Gカメラ搭載）により、イノシシ被害対策調査に赤外線カメラを搭載して調査した。今は、インスパイアという更に優秀なドローンにより、避難訓練の状況を撮影し、人と車の避難経路・避難時間等を検証した。

【藤生先生のご講演】



(2) 橋梁点検の効率化

石川県と福井県が管理する橋梁について、既存橋梁の「長寿命化」に役立てるものとし、橋梁の健全度に影響を与えている環境要因と影響の程度を分析することとした。

橋梁に影響を与えている環境要因としては、①海岸線からの距離（飛来塩分）、②年降水量・年最深積雪量（凍結防止剤の量）、③日交通量・大型車交通量等があるため、これらの各要因と主桁・床板・支承それぞれの劣化速度に与えている影響について調査した。分析調査の結果、石川県と福井県では、劣化速度に大きく影響している要因として、主桁は供用年数が共通し、支承は共通点がなく、床板も橋長と供用年数が共通していることが分かった。

近年は、橋梁の定期点検を5年毎に行っていくための自治体における、①財源の不足、②人材の不足、

③技術力の不足が懸念されることから、次世代の技術と研究成果を活用した、戦略的な橋梁の点検システムが必要である。

このため、超高解像度カメラで撮影した画像を用いた診断実験を石川県羽咋市の橋梁で行った。その結果、点検費用の削減や客観性を担保した診断結果が得られることが分かった。

しかしながら、建設時の型枠の跡など、ひび割れであるか判断が困難な箇所が混在するとともに、撮影場所を特定するために拡大縮小を繰り返す必要があり、時間を要することが判明した。この問題点を克服するために、診断実験で診断された画像を教師データとしたひび割れを検出するAIを作成した。

(3) 災害時のIT活用

平成28年熊本地震における熊本城の被害状況を把握するためドローンを活用した。これを機に、発災後の危険箇所を迅速に把握すること、安全に被災地内で活動を行える仕組みの構築が重要であることが認識されたため、被災地上空に赤外線カメラを搭載したドローンを飛ばして被災地を撮影し、赤外線カメラの映像を用いて建物被害を把握した。

これは、無被害箇所は瓦が熱を持つため赤外線カメラには、温度が高く表示されるが、被害箇所は瓦がずれて木や土が露出しているため、瓦部分よりも低い温度が示された。

更に、赤外線カメラから撮影した被災建物の赤外線画像から屋根被害を判定するモデルを作成するAIシステムを開発した。その結果、AIを用いた屋根被害建物・無被害建物の判定が可能となった。

(4) まとめ

インフラの維持管理に積極的に最新のテクノロジーを組み合わせ、財源・人材・技術力の不足を補い、効率良く迅速・正確に、点検・診断するシステムは、将来的に必ず必要なものである。

■交流会

今度副会長の音頭で乾杯の後、両講師を囲んで和やかな懇親に入った。お互いの近況を語り合い和気あいあいのうちに終了の時間となり、橋本副会長の音頭で中締め後、散会となった。

【交流会風景】



文責：富山 初田浩也

5. 平成 29 年度合格祝賀会報告

- 1) 日時：平成 30 年 4 月 7 日（土）
- 2) 場所：金沢 ANA クラウンズプラザホテル
- 3) 参加人数：二次試験新合格者 29 名、二次試験追加合格者 7 名、一次試験新合格者 5 名
一般技術士 71 名、招待者・事務員 4 名、合計：116 名

【全体風景】



【名刺交換風景】



【二次試験合格者紹介】



【追加合格者紹介】



【一次試験合格者紹介】



【じゃんけんゲーム最終戦】



●平成 29 年度北陸 3 県内合格者名簿（官報及び当会で確認できた方のみ掲載：H30.4.13 現在）

1) 第二次試験合格者（★ 当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載）：合格者総数：101 名（石川会場：96 名）

県	名前	部門	所属先	県	名前	部門	所属先	県	名前	部門	所属先
富山	布目 拓也	機械	YKK(株)	福井	山田 泰之	建設	福井市役所	石川	筒井 弘之	建設	㈱日本海コンサルタント
	安藤 佑介	機械		石川	原 一貴	建設	羽咋測量設計㈱		長清 俊騎	建設	
	堀 正彦	電気電子		富山	橋本 徹	建設	北電技術コンサルタント㈱	石川	池田 浩彰	建設	金沢市役所
富山	竹田 正史	電気電子	北陸電力㈱	福井	中野 洋二	建設	㈱サンワコン		笹谷 拓己	建設	
福井	小林 英一	電気電子	福井大学	富山	北野 仁郎	建設	㈱建設技術研究所富山事務所		赤塚 学	建設	
石川	元女 雅浩	電気電子	北陸電気工事㈱	石川	升方 祐輔	建設	㈱新日本コンサルタント	石川	松原 智則	建設	北川建設㈱
	井上 利弘	化学	福井大学	石川	柴田 悠平	建設	㈱日本海コンサルタント		又坂 文章	建設	
富山	比嘉 匠	化学	立山マシン㈱		野坂 和典	建設			國奥 徹	建設	
	水本 和也	化学			富田 直樹	建設			高田 大輔	建設	
	泊 晃平	化学		石川	木下 誠	建設	㈱東洋設計	石川	片桐 寿通	建設	㈱国土開発センター
	金山 拓夫	繊維		富山	花本 希樹	建設	関西電力㈱	福井	長谷川 智一	建設	㈱サンワコン
石川	三上 佳邦	繊維	㊿(株) 新田第一工場		近松 幸夫	建設			赤桐 さやか	建設	
富山	荒城 弘弘	金属	YKK AP㈱	福井	江黒 充和	建設	(公財) 福井県建設技術公社		岩崎 誠二	上下水道	
	辻 慎一朗	建設			北角 利行	建設		石川	末友 秀治	上下水道	㈱東洋設計
	辻 祐樹	建設		石川	中野 晃太	建設	㈱日本海コンサルタント	石川	北村 正樹	衛生工学	㈱日本海コンサルタント
	吉田 圭介	建設			辻野 清史	建設			田谷 哲也	農業	
石川	谷口 徹	建設	中部地質㈱		柴崎 晃	建設			島田 義博	農業	
	大槻 正彦	建設		石川	吐山 浩	建設	㈱国土開発センター		篠島 清隆	農業	
	佐々木 喜昭	建設			上田 剛志	建設			仲村 親憲	農業	
石川	本田 和也	建設	住友大阪㊿(株)北陸支店	石川	野口 哲史	建設	中日本高速道路㈱ 金沢支社		濱崎 健司	農業	
富山	野原 徳博	建設	佐藤鉄工㈱	石川	辰野 肇	建設	㈱国土開発センター		中村 剛志	森林	
	金谷 政宣	建設		富山	延原 治也	建設	㈱富山設計	富山	朝倉 弘之	森林	富山県砺波農地林務事務所
	泉谷 智之	建設			四辻 裕文	建設			川上 伸一	森林	
福井	山川 博樹	建設	㈱M・T 技研	富山	浦田 智文	建設	㈱東洋設計		日野 康久	応用理学	
石川	窪 真一	建設	大洋コンサルタント㈱	石川	島木 正博	建設	㈱国土開発センター		土屋 恒久	環境	
	杉本 英大	建設			西坂 友大	建設		福井	久保 隆史	原子力	関西電子ビーム㈱
	新川 奈穂子	建設		石川	細川 悟志	建設	㈱日本海コンサルタント		吉澤 直子	総監	
	正田 祈	建設		福井	上杉 桂一	建設	㈱サンワコン		石川 裕一	総監	
石川	大林 典典	建設	㈱国土開発センター		齋藤 哲也	建設		福井	梅田 祐一	総監	㈱デルタコンサルタント
石川	白井 勝敏	建設	㈱国土開発センター	石川	新田川 貴之	建設	㈱国土開発センター	福井	田中 和利	総監	福井県庁
石川	山下 香織	建設	㈱国土開発センター		塩満 俊和	建設		富山	守田 一夫	総監	富山県企業局
	登根 哲生	建設			中西 雄大	建設			傳田 大輔	総監	
福井	青木 靖弘	建設	㈱サンワコン	福井	西坂 友大	建設	㈱サンワコン		福島 聡一郎	総監	
石川	金岡 奈穂子	建設	㈱計画情報研究所	富山	野原 徳博	建設	佐藤鉄工㈱				

2) 第一次試験合格者（★ 当会に連絡のあった方のみ：順不同）：石川試験会場での合格者総数：195 名

県	名前	部門	所属先	県	名前	部門	所属先	県	名前	部門	所属先
石川	館谷 洋一	繊維	北陸ウェブ㈱	石川	北野 由香里	建設	㈱国土開発センター	石川	田中 俊輝	建設	㈱ウエストサークル
石川	新本 靖範	情報工学		石川	久保田 憲	建設	㈱デューロス・ジャパン	石川	谷本 竜也	建設	㈱デューロス・ジャパン
石川	石野 昌代	建設	㈱加能技研	石川	小林 勝俊	建設	金沢市役所	石川	寺地 孝志	繊維	㊿人加工系㈱ 加賀工場
石川	稲田 洋之	建設	真柄建設㈱	石川	齊心 大明	建設	㈱ホクコク地水	石川	直 大剛	機械	
石川	岩内 陽子	生物工学	金沢大学	石川	齋藤 豊	建設	石川県庁	石川	橋本 亮史	上下水道	金沢市企業局
石川	片山 聡	電気電子	関電プラント㈱	石川	桜井 稚玄	農業	五大開発㈱	石川	前村 勇輝	上下水道	㈱中央設計技術研究所
石川	上河原 敦	機械	中村留精密工業㈱	石川	順毛 正博	電気電子	㈱スギヨ	石川	松田 絵里子	農業	石川県農林総合研究センター
石川	川尻 諒	建設	中村留精密工業㈱	石川	竹内 敬視	建設	西日本旅客鉄道㈱ 金沢支社	富山	芦江 伸之	金属	サンエツ金属㈱
石川	川西 洋平	建設	㈱ジーオー中嶋	石川	田中 凜也	航空・宇宙	金沢工業大学大学院	富山	北川 浩二	経営工学	㈱スギノマシン

2) 第一次試験合格者 (つづき)

県	名 前	部門	勤 務 先	県	名 前	部門	勤 務 先	県	名 前	部門	勤 務 先
富山	小高 英之	建設	アジア航測(株)	富山	松田 幸二	機械	YKK(株)	福井	高島 由貴	建設	福井工業高等専門学校
富山	此川 卓頭	建設	㈱富山設計	富山	村上 和久	建設		福井	高橋 宏和	繊維	
富山	小林 一馬	機械	YKK(株)	富山	山下 誠	電気電子		福井	竹本 真梨	建設	㈱サンワコン
富山	佐々木 英弘	環境	パナソニック㈱AIS社	福井	井本 昭広	建設	㈱セス・コーポレーション	福井	田坂 朋也	環境	セキサンピーシー(株)
富山	高島 瑞貴	建設	東京コンサルタンツ(株)	福井	上田 雄大	建設	㈱光陽コンサルタンツ	福井	玉村 慶三	建設	㈱M・T技研
富山	得能 将平	森林	富山県西部森林組合	福井	岡田 憲幸	建設	ホクコンマテリアル(株)	福井	乗川 文尚	建設	セキサンピーシー(株)
富山	仲高 翔太郎	建設	㈱林ワ北陸 富山工場	福井	金粕 武都	建設		福井	阪東 和輝	機械	福井大学
富山	野村 義徳	建設	竹沢建設(株)	福井	小泉 貴義	衛生工學	マイランEPD 合同会社	福井	牧田 健太郎	上下水道	
富山	林 浩之	森林	富山県西部森林組合	福井	崎田 泰三	上下水道	福井市役所	福井	湯浅 香	建設	㈱日本ビーエス
富山	堀 友隆	機械	YKK(株)	福井	篠地 叡生	建設	福井工業高等専門学校				

6. 平成 29 年度役員名簿

役 職	名 前	県名	部 門	所 属 先	役 職
会 長	有澤 良一	富山	建設	(株)アリサワ技術	代表取締役社長
副会長	橋本 栄治	福井	建設	前田建設工業(株)	関西支店福井営業所・顧問
副会長	今度 充之	石川	建設 総監	東京コンサルタンツ(株)	取締役北陸支社長
理事(総務)	岸 竜太郎	福井	建設 総監	(株)Eco&Eco	代表取締役
理事(総務)	池田 保裕	福井	建設 総監	(株)ワカサコンサル	福井支店長
理事(総務)	岡村 興一	石川	機械 総監	岡村技術士事務所	所長
理事(総務)	辻 隆治	福井	建設 総監	(株)サンワコン	地域計画部長
理事(事業)	埴 正浩	石川	建設 総監	(株)日本海コンサルタント	専務取締役
理事(事業)	大江 正道	富山	建設 総監	北電技術コンサルタント(株)	第二土木部 統括課長
理事(事業)	佐渡 正	富山	建設	佐渡技術士事務所	所長
理事(事業)	為沢 剛	福井	農業	鳴鹿堰堤土地改良区連合	新土地改良区準備室長
理事(事業)	初田 浩也	富山	建設	新和設計(株)	常務取締役
理事(事業)	東川 敏	石川	建設	清水建設(株)北陸支店	営業部長
理事(事業)	森下 正	富山	機械	川田工業(株)	北陸事業部・主幹
理事(事業)	山崎 裕生	福井	農業	丸一調査設計(株)	
理事(業務)	竹内 勝信	富山	建設 総監	(株)アーキジオ	取締役常務
理事(業務)	大深 伸尚	石川	建設	アルスコンサルタンツ(株)	取締役会長
理事(業務)	川崎 善徳	福井	農業	福井県嶺南振興局	二州農林部県民サービス室長
理事(業務)	藤田 久之	富山	建設	北陸電力(株)	土木部 副部長
理事(業務)	欠 員	石川			
理事(青年)	平澤 由佳	石川	農業	(株)国土開発センター	設計事業部設計3部担当部長
理事(青年)	佐々井 忍	富山	建設	共和クレーン(有)	代表取締役
理事(青年)	茅田 照代	福井	環境 建設 農業	(株)北陸環境科学研究所	環境科学部主任研究員
理事(青年)	辰橋 浩二	石川	建設 環境	(株)国土開発センター	環境事業部環境1部担当部長
監 事	加藤 充哉	石川	上下 環境 総監	加藤技術士事務所	所長
監 事	坂井 正明	福井	上下	環水工房(有)	代表取締役
監 事	大石 守仁	富山	建設	富山県デジタリタ事業協同組合	技術顧問
相談役	津田 直昭	福井	上下 衛生	(株)中村正建設	
相談役・事務局長	屋敷 弘	石川	建設 農業 総監	(株)日本海コンサルタント	常任相談役

注：理事 () は所属委員会を示す。(青年)は「女性・青年委員会」の略。ハッチは委員長。

7. 平成 30 年度行事予定 (案)

開催予定月日	事 業 内 容
平成 30 年 6 月 2 日	平成 30 年度総会・特別講演会 (金沢勤労者プラザ)
平成 30 年 6 月 30 日	拡大青年技術士会議 (金沢) (6 月 30 日～7 月 1 日)
平成 30 年 7 月 15, 16	技術士第二次試験 (地場産業センター) 15 日：総監部門、16 日：総監以外部門
平成 30 年 7 月 21 日	第 1 回役員会
平成 30 年 10 月 8 日	技術士第一次試験 (金沢工業大学)
平成 30 年 10 月 27 日	技術研修会 (金沢勤労者プラザ)
平成 30 年 11 月 11 日	第 45 回 技術士全国大会 (福島) (11 月 11 日～14 日)
平成 31 年 2 月 9 日	技術講演会 (金沢勤労者プラザ)
平成 31 年 2 月 22 日	産学官技術士合同セミナー (KKRホテル金沢)
平成 31 年 4 月 6 日	第 2 回役員会、平成 30 年度新技術士合格祝賀会 (ANA クラウンズプラザホテル)

★★ 編集後記 ★★

今年度の石川会場技術士第二次試験合格者は昨年に対して 12 名の増でした。今後も北陸の技術士がますます増え、相互交流の場としての本会の発展にも寄与していただければ幸いです。なお、本会は来年 8 月には設立 50 周年となりますので、記念事業等を検討していきます。

北陸技術士懇談会 HP : <http://www.hokugikon.org/> 過去の行事資料や写真が掲載されています。